わたしたちは
かかわりあう。

はこだて国際科学祭2021

実施報告書

サイエンス・サポート函館

はこだて国際科学祭

はこだて国際科学祭 2021
実施報告書

目次

はじめに …… 1
開催実績・プログラム編成 …… 2
広報とデザイン展開 …… 3
はこだて国際科学祭ハイライト
　サイエンス・サポート函館　出展企画 …… 4
　本イベント …… 5
　プレイベント …… 8
活動へのご支援のお願い …… 12
出展参加のご案内 …… 12
主催組織　サイエンスサポート函館 …… 14
はこだて国際科学祭を支える活動 …… 15
資料編　はこだて国際科学祭 2021 プログラム一覧 …… 16
はこだて国際科学祭ご協力者一覧 …… 20

はじめに

はこだて国際科学祭は、北海道南西部・渡島（おしま）振興局管内の広域はこだて圏（函館市、北斗市および七飯（ななえ）町の2市1町）を基盤に毎年夏に開催している、地域ぐるみの科学のお祭りです。科学を楽しむことを入り口に、科学と社会の関係を考えるきっかけをつくることを目的に実施しています。

はこだて国際科学祭を主催しているのは、事務局を公立はこだて未来大学 社会連携センターに置く「サイエンス・サポート函館」です。広域はこだて圏の行政組織、高等教育機関、公的支援機関等によって組織され、これらの連携協力体制のもと、地域における市民の科学の学びの場づくりを支えています。

はこだて国際科学祭は、2009 年 8 月に初回が開始され、人口約 32 万人の広域はこだて圏において、毎年のべ 1 万人を超える方が参加する催しにまで成長を遂げています。地元のメディアも、毎年夏の開催時期が近づくと、はこだて国際科学祭を積極的に記事に取り上げるようになり、より多くの市民に認知されてきています。

通算 13 回目となる 2021 年は、前年の 2020 年から続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を鑑み、オンラインでの開催を主軸としながらも、実施者の意向を尊重しつつ、感染対策を講じた上で、対面で行うリアル開催イベントを適宜盛り込むようにしました。

地域を超えて多数の団体、個人に出展・協力を頂き、9 日間の会期とプレイベント、ポストイベントを含め、新型コロナウイルス感染症による中止されたものを除いて、計 38 のプログラムを実施することができました。オンライン化の普及に伴い、場所による制約がなくなってきたことから、大都市圏から距離的に離れた地域の科学イベントでありながらも、出展者、参加者ともに、広く全国各地から集まるようになりました。

プログラムは、例年、子どもから大人まで、多様な参加者に向けた内容によって構成されるように配慮しています。本年も前年に引き続き、特に中高生に自ら主体的に関与してもらうようなコンテンツを充実すべく、プログラムの準備段階から意識して進めていきました。

運営に際しては、はこだて国際科学祭の出展に関わる多くの皆様との交流、そして深い学びのある場となることを重視しています。また、函館という地域の視点に加え、世界のことを考える視座も複眼的に意識するようにも心がけてきました。

はこだて国際科学祭は毎年、「環境」、「食」、「健康」の 3 つを年替わりのテーマとして開催してきています。2021 年は「環境」の年に当たりました。今回の科学祭では、「わたしたちはかかわりあう。」をメインテーマとして掲げました。すべてのものはかかわりあっています。それは、人も自然も同様です。いま、目の前で起きている急速な環境の変化に、わたしたちはどうかかわりあっていけばよいのか、企画展や各々のイベントを通して複数の視点を提示しました。

来たるはこだて国際科学祭 2022 は「食」をテーマに、2022 年 8 月 20 日（土）から 8 月 28 日（日）までの 9 日間を本イベントの会期としています。さらに、本イベント期間前後に実施予定のプレイベント、ポストイベントと同時並行で準備を進めてまいります。

引き続きのご支援、ご参加を何卒よろしくお願い申し上げます。

開催実績・プログラム編成

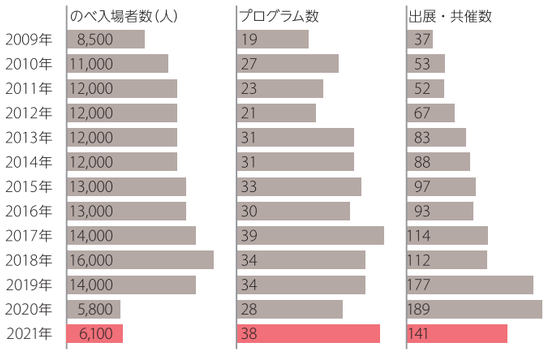
●開催実績

今回会場として新たに加わった函館大学ベイエリア・サテライトを主たる配信場所として、オンラインで様々な企画を実施しました。

コロナ禍によりオンラインでの開催を主軸に据えましたが、感染対策を講じた上で函館市青年センター、はこだてみらい館、函館蔦屋書店、函館 YWCA などで対面実施した連携企画もあります。

一昨年より導入した Zoom および YouTube Live を本年も積極的に活用し、対面を含めた総数で、のべ約 6,100 人の方々にご参加いただきました。プログラム数は、緊急事態宣言の影響で一部中止になったものを差し引くと、計 38 件に上ります。

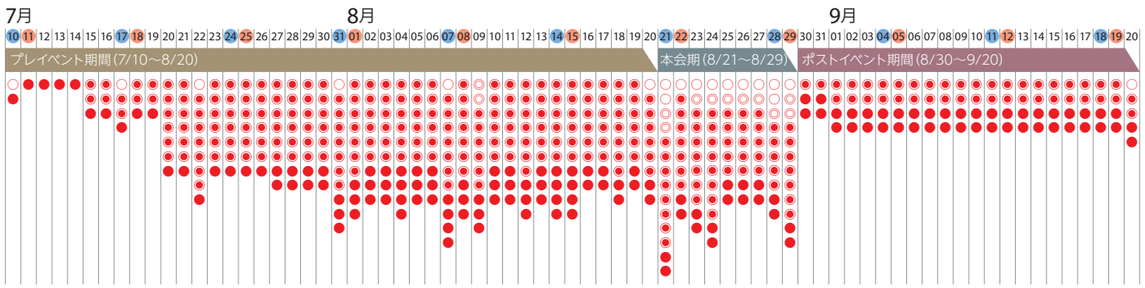
はこだて国際科学祭に関わった団体や個人による出展・共催者の数は 141 で、昨年に比べ実施件数が増えた分、1 人で複数のプログラムを掛け持ちするケースが増えています。



●プログラム編成

開催日程の全体像を把握するために、日ごとの実施プログラム数を下図に示しました。

日ごとの実施プログラム数



◯大人向けプログラム　◎中高生向けプログラム　◉子どもから大人まで対象のプログラム　●子ども主対象プログラム／自由研究

プレイベントでは、例年、小学校の夏休み期間に合わせ、子どもたちを主な対象としたプログラムを中心に実施しています。

2021 年も前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、オンラインのみならず、対面プログラムについても人数を制限したうえで実施することができました。

コロナ禍により、大人数で不特定多数の人たちが集まってイベントを行うことができなかったことから、毎年恒例の五稜郭タワーアトリウムでのショーイベントや、科学屋台（オープンスペースでの屋台を模したブース展示）の実施を取りやめました。そのため、プログラムの実施日程も、学校の夏休みと重なり、実施主体の業務都合による時間の制約が比較的少ないプレイベント期間中での開催に重心が移ってきています。

もともと、出展者に占める学校教育関係者の割合が高いため、コロナ禍の影響で日常業務において拘束される時間が長くなり、出展するにも準備にかける時間がなかなか取れないという現実が、出展・共催者数の減少につながっている可能性があります。

●出展・共催数の内訳

学校教育	45
政治・経済・文化団体	30
その他の教育，学習支援業	20
学術・開発研究機関	10
放送業	6
専門サービス業（他に分類されないもの）	5
地方公務	5
映像・音声・文字情報制作業	4
木材・木製品製造業（家具を除く）	4
電気業	3
サービス業（他に分類されないもの）	2
飲食料品小売業	2
業務用機械器具製造業	2
その他の小売業	1
協同組合（他に分類されないもの）	1
繊維工業	1

※日本標準産業分類・中分類に準じた。
個人やサークル活動等の参加は、その所属および専門性によって分類を行った。

広報とデザイン展開

●制作物一覧

メインポスター　B2 版　100 部

イベントチラシ　A4 版両面　1,000 部

企画展ブックレット　148mm 四方　24 ページ　1,000 部

●各種メディアでの報道・掲載・出演

函館大学ベイエリア・サテライトでの記者レクチャー（2021 年 6 月）
※同時にオンラインでも限定配信

メディア掲載等状況（2021 年 6 月〜 10 月確認分）

新聞	北海道新聞朝刊本紙 北海道新聞夕刊本紙（全道版および道南版「みなみ風」） 函館新聞 朝日新聞北海道版本紙 科学新聞 NHK 函館放送局「ほっとニュース北海道」
テレビ	NCV 函館コミュニティチャンネル「函館おでかけ情報」 HBC 函館放送局「市民の時間（くらしのガイド）」
ラジオ	FM いるか「オトノハにのせて」 函館市教育委員会発行情報誌「プチまなびっと」夏休み号
雑誌･フリーペーパー	市政はこだて 8 月号 函館イベントガイド（函館市公式）
ウェブサイト	Science Portal イベントページ 理化学研究所公式サイト イベントページ 函館 蔦屋書店公式サイト イベントページ 市町村公認ニュース & イベントアプリ Domingo 中高生向け校外プログラム紹介サイト Qulii 子どもとお出かけ情報「いこーよ」 FM いるか 807 ブログ 函館市青年センター公式サイト 活動日誌 サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊公式サイト 活動の記録活動の記録 大阪大学「公共圏における科学技術・教育研究拠点」
ソーシャルメディア	Facebook ページ 高校生向けイベント情報収集グループ Facebook ページ 東大 CAST 公式 Twitter

企画展パネルとキャプションデザイン

はこだて国際科学祭2021 ハイライト

サイエンス・サポート函館 出展企画

全国の科学コミュニケーション活動とは一線を画す、はこだて国際科学祭を特徴づけるものとして、年替わりのテーマを「環境」「食」「健康」の3つとし、これを循環させていることがあります。
またそれにあわせ、3つのイベント（企画展、サイエンス・ダイアログ、科学夜話スペシャル）を実施しています。科学祭を、科学イベントの単なる寄せ集めでなく、主催者からメッセージを発することによって、科学を社会の広い文脈の中に位置付け、異なる立場や複数の視点の存在に気づいてもらい、考えてもらう取り組みです。

●企画展
「わたしたちはかかわりあう。」
8/21 ㊏～ 9/20 (月)祝（24 時間）オンデマンドコンテンツ
対象：どなたでも
制作：FVR ラボ

本企画展のために多様な背景を持つ人々が集まり、互いに響き合う中で制作を進めてきました．FVR を実験的に試みることから、この制作チームを「FVR ラボ」と呼んでいます。
Fantasy（ファンタジー）想像力と創造力を駆使し
Vision（ビジョン）　　望ましい未来を描き
Reality（リアリティ）現実世界とのつながりを示す
一人ひとりが立ち止まり、今日から何ができるか、何をしていくべきか、科学技術と社会の関係について考える機会を、この企画展が提供できることを願っています。

今年は昨年に引き続き、オンラインで開催しました。シンプルでバラエティに富む、そして立ち止まって考えてみたくなる内容を用意しました。展示を制作するにあたり、地域の科学者、農家，博物館、行政などの関係者にインタビューを行い、物語を作り上げています。
会期終了後には、その図録を作成して配布したり、ウェブサイト上ではデジタル版も公開したりしています。これらの内容はすべて、科学祭のウェブサイトでデジタル図録として見ることが可能です（https://sciencefestival.jp/）。

はこだて国際科学祭2021 ハイライト

本イベント（本部主催）

●サイエンス・ダイアログ
「科学のミカタ：環境問題にどうむきあうか」
8/21 ㊏ 16:00 ～（90 分）ライブ配信（Zoom ミーティング）
対象：どなたでも
ゲスト：元村有希子（毎日新聞社論説副委員長）

サイエンス・ダイアログは、毎年初日のオープニングイベントとして開催しています。その年のテーマにあったゲストをお招きし、お話をうかがいます。一方通行の講演ではなく、対話形式で進めるのが特徴です。
今年は、第１回科学ジャーナリスト大賞受賞者でもある、毎日新聞論説副委員長の元村有希子さんをお招きし、「科学のミカタ：環境問題にどうむきあうか」というテーマでお話しいただきました。
この「ミカタ」には、科学を「味方」にすることについて、そして科学関連のニュースの「見方」について、という意味が込められています。世界で起きている環境問題から私たちが日々できることまで、わかりやすく、親近感を持ってお話を聞くことができました。

●環境サイエンスカフェ
「世界の取り組みから考える地球温暖化防止」
8/29 (日) 16:00 ～（90 分）ライブ配信（Zoom ミーティング）
対象：どなたでも
ゲスト：池田 誠（北海道地球温暖化防止活動推進員）
　　三瓶 真（函館国際水産･海洋都市推進機構 プロジェクトマネージャー）
ファシリテーター：谷口雅春（ライター）

毎年、最終夜に開催する科学夜話スペシャルは、今年は本イベント最終日の日中に”環境サイエンスカフェ”として、オンラインで一般公開しました。企画展制作のキュレーターである、ライターの谷口雅春さんからは、企画展の制作を通して得た情報や考えをもとに、極域研究調査も行った経験のある研究者の三瓶真さんからは、地球規模の温暖化現象について特に海洋研究の成果から、そして函館を拠点に、様々なまちづくり活動に携わっている池田誠さんからは、地球温暖化防止に対する子どもたちへの取り組みを紹介いただきました。
その後3名で､｢函館の課題から世界の課題を考える。世界の課題から函館の課題を考える。｣ ことについて、環境問題の視点から議論いただき、はこだて国際科学祭にふさわしい、今年の総括イベントとなりました。

本イベント（出展参加企画）

●「想像＆創造してみよう！自動運転のある生活・社会」
～「SF プロトタイピング」手法を使って～
8/21 ㊏ 10:00 ～（120分）オンライン（Zoom ミーティング）
対象：どなたでも（主に中学生以上向け）
主催：科学技術社会実装研究グループ

ワークショップでは、函館をモデルにした架空の街と、その周辺に住む 4 家族を主人公に、完全自動運転が普及した未来の生活について話し合いました。山や海が近い函館をモデルにしたことで、多様な背景を持つ家族をリアルに設定することができました。

当日は、各地から幅広い年齢層の方々にご参加いただきました。

4 チームに分かれたグループワークでは、完全自動運転が普及すれば、人が動くこと、モノが動くことそれぞれに適した交通システムができる、陸上だけでなく、海も空も使って統合的な交通システムができるなど、未来の交通システムのプロトタイプがアイディア豊かに話し合われました。さらに、その土地に固有のものと、土地に縛られないものが明確になり、人々の価値観も変わってくるという、人の内面に関することも話し合われました。
2 時間という短時間のワークショップではありましたが、未来の生活や価値観に触れ、今を考えることができたのではないでしょうか。

●サイエンス・カフェ「守ろう私たちの地球 "Save Our Planet" (SOP)」
8/21 ㊏ 10:30 ～（240分）オンライン（Zoom ミーティング）
対象：北海道函館中部高等学校の生徒
共催：帰山雅秀（北海道大学新渡戸カレッジ）
　　山形 慶（北海道函館中部高校 SSH）

私たちは、地球温暖化により、現在きわめて重要な岐路（tipping point）に立たされています。「食」は私たちが生きるための「糧」ですが、そのうち「食」システムが温室効果ガス全排出量の 1/3 以上を占めています。

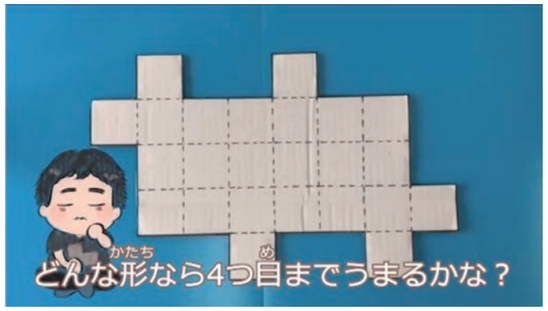
本プロジェクトでは、環境をテーマに掲げる「はこだて国際科学祭 2021」において、次世代を担う若者として、北海道大学新渡戸カレッジの大学生と函館中部高校の高校生により、「日常の食生活」から温暖化を学び、ストップするためのサイエンス・カフェ「守ろう私たちの地球 "Save Our Planet" (SOP)」をオンライン形式で行いました。

●楽しい算数！図形パズル！
8/21 ㊏～ 9/20 ㊊・㊗（24 時間）オンデマンド配信（YouTube）
対象：どなたでも（子どもから大人まで）
主催：北海道教育大学函館校
　　数学を楽しむワークショップ・プロジェクト

「楽しい算数！図形パズル！」は、「数学に親しみを持ちにくい」という課題の解決を目指して作成しました。そのため、動画には、親しみを持ちやすい 2 つのパズルゲームを取り入れました。

1 つは、正方形をいくつかに切り分けたパーツを組み替えて、様々な形をつくる「タングラム」。もう 1 つは、図形を「合同」な形に切り分ける「ごうどうぶんかつパズル」。
この 2 つのパズルに視聴者が挑戦する、という内容になっています。

動画を通して、「図形の面積」や「合同」について、楽しく学んでいただけたらと思います。



●はこだて国際科学祭 2021 | CoSTEP と、「環境」を考える
8/21 ㊏～ 8/29 ㊐（24 時間）オンデマンドコンテンツ
対象：どなたでも（子どもから大人まで）
主催：北海道大学 CoSTEP

はこだて国際科学祭 2021 に「CoSTEP と、「環境」を考える」として、CoSTEP が 2020 年度にオンラインで実施したサイエンス・カフェ札幌の中でも、特に環境に関わる 5 作品、「そりにひかれて – 科学とアートで環境をめぐる」で制作したオーディオコンテンツ、そして、北大×アート、KitA（キタ:Kagaku into Art）プロジェクトで上村洋一さんが制作した「仮の大地」を、それぞれオンデマンドコンテンツとして出展しました。

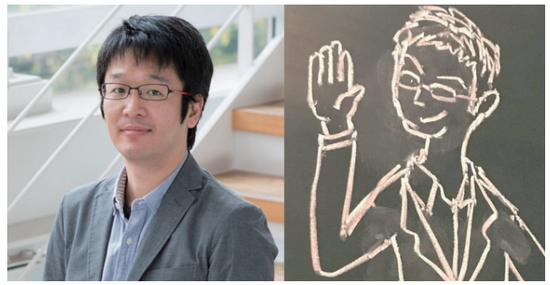
●おうちでサイエンス 2021
8/29 ㊐ 15:00 ～（30 分）ライブ配信（YouTube Live）
対象：どなたでも（子どもから大人まで）
演者：井上千加子（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊）
実験補助：サワダサヲリ（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊）
主催：サイエンス・サポート函館

昨年に引き続き、科学楽しみ隊によるサイエンスショーをライブ配信しました . 毎日のように使っているプラスチックを題材に、おうちでもできる実験を紹介しました。
ペットボトルを加熱して繊維を作ったり、レモンの皮に含まれるリモネンで発泡スチロールを溶かしたりするリサイクル実験に加え、ポリスチレンでできているおかずパックやカップスープのフタなどを捨てる前に熱を加えておもしろキーホルダーに作りかえたり、ペットボトルのラベルを別の瓶に貼り付けてみたり、プラスチックを捨てずに楽しく遊べる科学工作をお伝えしました。
携帯トイレに使われている高吸水樹脂が水を吸う様子も見てもらい、プラスチックについて関心を持ってもらえるきっかけになっていれば嬉しいです。

●第 5 回 ジオ・フェスティバル in HAKODATE
8/29 ㊐ 09:30 ～、11:00 ～、13:00 ～（各 60 分）
ライブ配信（Zoom ミーティング）
対象：どなたでも（子どもから大人まで）
主催：ジオ・フェスティバル in Hakodate 実行委員会

事前申し込み制で函館市青年センターでの会場開催をめざしていましたが、実施 10 日前に感染拡大状況をみて急遽オンライン（Zoom ミーティング）に切り替えました。
沼田町、紋別市からもオンラインで出演をお願いし、事前に申し込んだ函館周辺在住の 19 家族に実験の素材を配布、ブレイクアウトルームに分かれて、化石ミニ発掘 や液状化実験、クリオネライブ、石ころトークなど、こども中心に楽しんでいただきました。大人も参加できる企画を次には考えたいと思います。

●環境サイエンスカフェ
「わかんないよね　個人衛生としての感染症対策の歴史～マスクを題材に～」
8/28 ㊏ 14:00 ～（120 分）ライブ配信（Zoom ミーティング）
対象：どなたでも（子どもから大人まで）
ゲスト：住田朋久（慶應義塾大学文学部 訪問研究員）
　　網盛一郎（Xenoma Co-Founder & 代表取締役 CEO）
主催：サイエンス・サポート函館



コロナ禍において日常のものとなったマスクを題材に、マスクの歴史を研究されている住田朋久さんと繊維の素材に詳しい網盛一郎さんに話題提供していただきました。お二人のお話を聞いた上で、マスクは何のためにするのか、どんな目的でどのようなものを選ぶのか、参加者それぞれのマスク観を話し合ったり、災害時、健康を守るためにマスクが必須となる可能性について考えたり、これからの生活を健康に過ごすための貴重な時間になったと思います。

プレイベント

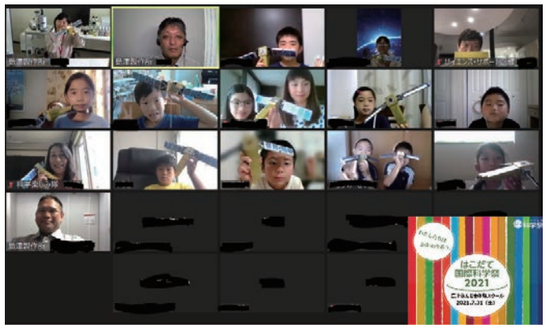
● 2021 北海道大学水産学部 公開講座
「海をまるごとサイエンス！」
7/10 ㊏、7/17 ㊏、8/21 ㊏、9/20 ㊊祝（各 60 分～ 90 分）
北海道大学函館キャンパス（一部ライブ配信に切替え）
対象：（原則として）高校生以上
主催：北海道大学水産学部

今年度は新型コロナウイルス感染症の対策のため、前半 3 回は函館キャンパス内講義棟大講義室での対面講義およびオンラインでの講義を同時開催、後半 2 回はオンラインのみの開催とし、延べ 332 名が受講しました。本講座は今年で 35 回目の開催となりました。今年度は、毎年参加されている道南地域の方々だけでなく、オンラインも同時に開催することで全国から水産学部に興味のある高校生の参加も多数見られました。
函館と深い関わりのある水産工学について、「海・川・湖を舞台とした総合的な理科（生物学、化学、物理学、地学）」の教育研究をテーマにした多様な研究内容について紹介する講義を行いました。
講義の最後に設けている質問コーナーでは、毎回熱心な質問や意見が寄せられ、オンライン参加した高校生からも好奇心に満ちた質問が寄せられました。
対面とオンラインの同時開催は初めての試みで、試行錯誤の連続でしたが、直接来学できない方々にも多数受講いただき、貴重な機会となりました。

●あつまれ！わくわくエコキッズ
7/22 ㊐祝 09:00 ～（120 分）函館環境衛生株式会社
対象：函館市内の小学生とその保護者
主催：函館の環境を考える会（エコネットはこだて）
協力：函館環境衛生株式会社、函館市環境部

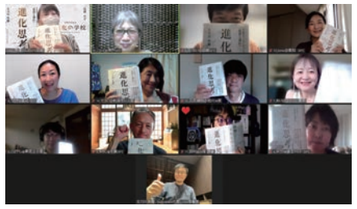
「あつまれ！わくわくエコキッズ」は、『自分たちが分別して出したごみが、その後どうなるのか?』を知ることで環境問題を考えるきっかけになり、夏休みの自由研究の題材として取り上げてもらい、それぞれの学校で発表してもらうことで、さらにクラスのお友だちにも情報を伝えてもらいたいという狙いがありました。
ごみ収集車への乗車体験と操作ボタンを実際に押してごみを取り込む体験をした後、函館市のごみ処分についてのお話、日頃ごみ収集のお仕事をしている職員の方々から現場の仕事内容や収集業務ならではのここだけのお話も教えていただき、ごみ問題の○×クイズで大盛り上がりでした。

●島津ぶんせき体験スクール「ひさき型分光器を作って光を観察しよう！」
7/20 ㊏～ 8/15 ㊐（24 時間）
ライブ配信（Zoom ミーティング）とオンデマンド配信（YouTube）の併用
対象：小学 3 年～小学 6 年の児童
主催：株式会社島津製作所
協力：サイエンス・サポート函館



2007 年より子供たちに「理科や科学に興味を持ってもらう“きっかけ”を提供したい。」との思いから始めた「島津ぶんせき体験スクール」は、島津製作所の分析装置の操作体験に加え、簡単な実験やモノ作り体験を実施しています。
日頃は京都の島津製作所本社で開催していますが、科学祭やサイエンスイベントへの出展協力も行っています。
はこだて国際科学祭では、「ひさき型分光器を作って光を観察しよう！」というプログラムを実施しました。ひさきは JAXA が開発した惑星分光観測衛星で、島津の回折格子（光を分光する部品）が搭載されています。
このプログラムは、①事前に自宅に届いた「ひさき」のペーパークラフトを、参加者各自が動画を見て各自組み立て、様々な光を観察する。②オンラインスクールで観察した内容を共有する。という内容でした。
オンラインには、「ひさき」に搭載された回折格子の開発を担った技術者も参加し、光や分光・ひさきについてたくさんの質問を受けました。子供たちが宇宙や科学に興味を持っている様子が伝わってきました。

●『進化思考』アクティブ・ブックダイアローグ in はこだて国際科学祭 2021
7/22 ㊏ 15:00 ～（180 分）オンライン（Zoom ミーティング）
8/7 ㊏ 13:30 ～（180 分）オンライン（Zoom ミーティング）
ゲスト：太刀川英輔（慶應義塾大学 特別招聘准教授、デザインストラテジスト）
対象：事前に「進化思考」をご準備いただける方
主催：はこだて国際科学祭 2021 で
『進化思考』アクティブ・ブックダイアローグ（ABD）をやってみる会
協力：海士の風

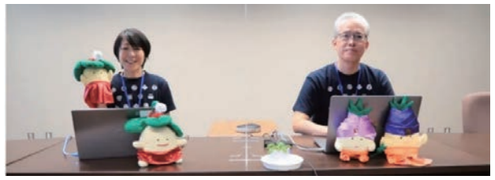


今回選んだのは、2021 年 4 月に出版されたばかりの太刀川英輔著「進化思考」。発売開始から、探究学習や身の回りに課題を抱えている人たちの間で最も話題になっている本のひとつに挙げられます。
進化というと、チャールズ・ダーウィンの名著「種の起源」を思い起こされる方も多いかも知れません。今回取り上げた「進化思考」ではさらに、生物の進化の過程に埋め込まれた創造性の萌芽を各人が認識し、次のアクションにつなげるための基礎的な素養につながる「進化思考」を実践していくためのエッセンスに触れました。
科学祭のイベント参加がきっかけで、有志による『進化思考』のワークを実践する自主勉強会が立ち上がり、定期的にオンラインで朝活が行われるまでになりました。

●おやこで自由研究
「時計を分解して自分だけの時計を作ろう♪」
8/4 ㊏ 10:00 ～（120 分）函館 YWCA
ゲスト：井上千加子（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊）
対象：小学生と保護者（小学生のみの参加は不可）
主催：一般財団法人 函館 YWCA

函館 YWCA のホールで、コロナウイルス感染対策に最大限気を付けながら、小学 1 年生から 6 年生まで 7 組の親子が参加し、時計を分解して部品標本を作ったり、部品を組み換えた逆回転時計や黒板をつかったオリジナル時計作りに挑戦しました。
普段中身を見ることのない機械を自分で分解して部品を調べたり、動く仕組みを確かめたうえで逆回転する時計を作ったり、「実際に手を動かして科学を体験する」ことを親子で楽しんでもらいました。

●理研 DAY：研究者と話そう！
植物パワーで虫をコントロール！～生き物と共生する農業を目指して～
7/31 ㊏ 14:00 ～（30 分）
ライブ配信（Zoom ミーティングおよび YouTube Live）
ゲスト：安部洋（理研バイオリソース研究センター実験植物開発室 専任研究員）
ファシリテーター：小林空究（理研筑波事業所バイオリソース研究推進室 室員）
対象：どなたでも（主に中高生向け）
主催：国立研究開発法人理化学研究所



理研では、毎月 1 回小学生から一般のかたを対象にオンラインイベント「理研 DAY：研究者と話そう！」を開催しています。
7 月ははこだて国際科学祭 2021 とのコラボイベントとして開催しました。Zoom の投票機能を使って Zoom 参加者へクイズを出したり、音声やチャットでの質問を受け付けたり、同時に YouTube でのライブ配信も行いました。
中学生・高校生向けの内容でしたが、小学生から年配の方まで多くの世代が参加しました。
植物には害虫から身を守るための防御システムがあることや、害虫を遠ざける制虫剤の開発などの話を通して、「植物の防御力とは、環境に優しい害虫退治とは何か」を一緒に考えるきっかけとなりました。開催後のアンケートでは、SDGs にも有効な可能性があるとの回答が寄せられました。

●ブレイン・サイエンスカフェ in はこだて国際科学祭2021「脳を司る「脳」」
8/9 ㊊祝 14:00 ～（120 分）ライブ配信（Zoom ミーティング）
ゲスト：毛内拡（お茶の水女子大学理学部 助教）
対象：どなたでも（主に中高生向け）
主催：お茶の水女子大学毛内研究室
協力：講談社ブルーバックス
市立函館高等学校「地域探究学習」
サイエンス・サポート函館

3 校 4 グループ（市立函館高校、函館西高校、函館ラ・サール高校）の高校生たちとともに、『脳を司る「脳」』（講談社ブルーバックス、2020）を題材として、脳科学に関する探求学習を深めました。
4 グループが、本書の一章分を担当し、スライドを用いて発表した後、未解決の問題をとりあげ、全体に投げかけるという形式を採りました。
他のグループが、それに対する自分たちの意見やその根拠を述べ、議論を行いました。
生徒たちのまとめた内容はもちろん、問題意識やそれに対する意見などがしっかり述べられており感銘を受けました。

●「大森浜で考える地球温暖化と海洋プラスチック汚染」ビーチコーミング
8/1 (日) 09:00 ～ (120 分) 大森浜
対象：どなたでも (ただし小学生は 4 年生以上，保護者同伴)
主催：チーム大森浜
　　ジオ・フェスティバル in Hakodate 実行委員会

大森浜は、6 月に遺愛生が全校ボランティアの一環としてビーチクリーンアップを実施した場所ですが、前年から多くのごみが漂着し、特にプラスチック破片が多く残っていました。
漂着生物から温暖化を知ることは難しかったですが、海ゴミの現状はわかっていただけたかと思います。
後半、霧雨模様になり、サン・リフレの会議室で地学部が過去に集めた貝類標本などを見ていただいて、この海域に生息しない南の生物も漂着することを紹介しました。

●「大森浜で考える地球温暖化と海洋プラスチック汚染」ワークショップ
8/18 (日) 09:00 ～ (120 分) オンライン (Zoom ミーティング)
対象：どなたでも
ゲスト：鈴木明彦 (北海道教育大学札幌校 教授)
　　桑原尚司 (北海道立オホーツク流氷科学センター 学芸員)
　　田中邦明 (北海道教育大学函館校 名誉教授)
　　小島あずさ (一般社団法人 JEAN 理事)
ファシリテーター：雁沢夏子 (チーム大森浜)
主催：チーム大森浜
　　ジオ・フェスティバル in Hakodate 実行委員会

最初に大森浜ビーチコーミングの様子を簡単に紹介したのち、講師 4 名からお話をしていただきました。
参加者からも、「マイクロプラスチックを調べる方法について知りたい」などの質問、「ペットボトル飲料をやめるべきではないか」などの意見が出されました。
道外からの参加者は海洋プラスチック汚染など海の環境問題を知りたい方が多く、とくに高校生・大学生は学校の夏季課題や授業との関連で参加された方が大半でした。
地域で考える取り組みにはならなかったかもしれませんが、大森浜で見られる漂着物や浸食の問題は、各地の海岸にも共通する問題であり、多くの方々と共有できたことは、よかったのではないかと思います。

●ジオ散歩
8/8 (日) 09:00 ～ (150 分) 元町公園～市立函館博物館
8/10 (火) 09:00 ～ (180 分) 北海道教育大学函館校～宮前町 (荒天中止)
8/12 (木) 09:00 ～ (120 分) 大森浜
対象：どなたでも (ただし小学生は 4 年生以上、保護者同伴)
主催：ジオ・フェスティバル in HAKODATE 実行委員会

屋外の催しであれば、感染防止措置をしっかりとって実施すれば、屋内よりは安心ではないか、ということもあり、3 回ほど、屋外でのジオ･フェスティバルとして「ジオ・散歩」を企画しました。
新しい形の「野外ジオフェス」の可能性が探れた企画でした。

●世界のオオクワガタとオオカブトムシの生態
7/31 (土)～10/31 (日) (24 時間) オンデマンド配信 (YouTube)
対象：どなたでも
出演：林原和哉さん (道南虫の会)
主催：函館市熱帯植物園
　　(指定管理：函館エコロジークラブ)

今年はコロナウイルス感染拡大防止の観点から、動画配信での参加となりました。外来種である世界のオオクワガタとオオカブトムシについて、講義スタイルで説明を加えました。
今後とも、小中学生を中心に昆虫の研究を通して、生命の尊さ、地域における外来種の扱い方、生態系の大切さ、自然環境保護の大切さをテーマに、昆虫学習会を続けていきたいと思います。

●東大 CAST のサイエンスショー
8/14 (土) 13:00 ～、8/15 (日) 13:00 ～、15:00 ～ (各 60 分)
ライブ配信 (YouTube Live)
対象：どなたでも
出演：山本蒼一郎 (東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST)
中谷歩夢、岡島櫂人、福田怜奈、馬場悠人、坂上陽凛、鈴木心絆、
宇野菜央樹 (市立函館高等学校)
主催：東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST
協力：市立函館高等学校「地域探究学習」

東大 CAST は、関東を中心に出張理科実験教室や科学イベント企画などを行っているサークルです。はこだて国際科学祭には 2019 年に初めて参加し、今年も市立函館高等学校の皆さんと YouTube を用いてサイエンスショーをライブ配信しました。今回は高校生を中心にショーを作り、主に小学生の方を対象として「象の歯磨き粉」「炎色反応」といった実験を行いました。ショーの後には反省点を出し合い、実験の見せ方を改良していく様子が見られました。サイエンスショー自体触れるのが初めての高校生がほとんどで、試行錯誤しながらではありましたが、高校生にとっても学びの多いものになったかと思います。

●大人の科学バー in はこだて国際科学祭 2021
「北海道のワインと地質のはなし」
8/14 (金) 19:00 ～ (120 分) ライブ配信 (Zoom ミーティング)
対象：高校生以上
ゲスト：後藤忠徳 (兵庫県立大学大学院生命理学研究科 教授)
　　畠山泰英 (編集者、キウイラボ 代表)
　　川邊久之 (エノログ、エノリューション 代表)
　　片岡寛孝 (函館・本町「シャカン・セ・グー」店主)
主催：キウイラボ

「北海道のワインと地質のはなし」と題して、大学教授・ワイン醸造家・酒店店主そして雑誌編集者の 4 名で、(各自が持ち寄った) 飲み物を片手に、気軽なトークライブを実施しました。
北海道の空知地方のワインは、どのような土地で作られているのか、地質や地下の話、ワイン醸造の話など、まじめな科学的なお話も交えながらの 2 時間でした。
約 50 名の方にご参加いただき、チャットなどで多数の質問が寄せられました。
ラジオのリクエストコーナーのように、頂いた質問を Pickup してお返事しつつ、質問をきっかけにしてさらに別のお話で盛り上がるなど、ライブ感満載のイベントとなりました。

活動へのご支援のお願い

はこだて国際科学祭は、よりよい社会を実現するために「科学をまちに出す」、「みんなで話をする」、「函館から世界を変える」の3つの柱を掲げて活動を続けてきました。12 年の節目を迎え、科学技術と社会をめぐる新たな視点を加え、より地域から愛され支持される場を目指して歩んでいきたいと考えています。
はこだて国際科学祭は、皆様からのご協賛によって成り立っています。個々のプログラム運営はボランタリーに参加、協力くださる多くの個人、団体の方に支えられています。加えて、科学祭のテーマを掘り下げる企画展の制作、祝祭空間のデザイン、ゲストの招聘等に多くの費用を必要としています。

●協賛金のお願い

協賛金によるご支援の検討をお願い致します。
詳細は、サイエンス・サポート函館事務局までお問い合わせください。

・ポスター、公式ガイド、企画展パネル等でのご紹介
5 万円以上の協賛をいただいた場合、メインポスター、公式ガイド他の広報媒体で、ご協賛について企業名のロゴでご紹介いたします。

・税制上の優遇
はこだて国際科学祭への協賛金は、主催団体であるサイエンス・サポート函館の庶務を担当する公立はこだて未来大学あての使途指定寄附金として頂戴します。
公立大学法人への寄附として、税制上の優遇措置を受けることができます。

●はこだて国際科学祭 2021 収支報告

収入

費目	収入金額（千円）
公立はこだて未来大学 科学技術理解増進事業経費充当分	2,023
寄附金（公立はこだて未来大学あて はこだて国際科学祭用途指定寄附金）	0
合計	2,023

支出

費目	金額（千円）
プログラム実施個別経費（科学祭話題提供者招聘謝金等）	273
プログラム実施共通経費（企画展デザイン制作費，オンライン会場使用料等）	1,075
広報費（公式ポスター・チラシ印刷費等）	204
記録経費（科学祭ビデオ制作費等）	451
その他（キックオフイベント・記者発表等補助スタッフ謝金）	20
合計	2,023

出展参加のご案内

はこだて国際科学祭は、任意団体「サイエンス・サポート函館」事務局が窓口となり、地域内外の様々な方々との連携・協力のもとで開催しています。「科学をまちに出す」、「みんなで話をする」、「函館から世界を変える」を活動指針に掲げ、科学をテーマにした参加と協働による、自ら考え行動する学びの場として活動を続けてきました。
2019 年の科学祭で実施した、サイエンスコネクトでの南極中継をきっかけとして、Zoom や YouTube といったオンラインツールを積極的に採用することにより、限られた地域の枠を超えた広がりを見せるようになりました。今後とも地元函館・道南に軸足を置きつつ、ローカルとグローバルの両方の視点をもって、ゆるやかな人的ネットワークのもとで持続的に取り組んでいこうと考えています。
科学祭の活発、発展的でかつ継続的な活動には、趣旨に賛同される多くの皆様方のご支援、ご参画が不可欠です。科学祭の企画・運営を通じた対話的な深い学び合いのネットワークにご参加いただくことで、楽しみながら地域や社会をよりよいものに変えていく可能性があります。

科学祭に出展参加するには、様々な方法の中からご自身に合ったものを選択することができます。以下は、その代表的なものです。

●出展のメリット
〇効果的な広報
はこだて国際科学祭公式ガイドブック、ウェブサイト、外部メディア、その他各種広報媒体を活用し、函館道南地域の方々を中心に広くお知らせすることができます（掲載料無料）。
〇出展者同士の交流、学び合う仕掛け
スタッフ交流会（科学祭本イベント開催前）、出展者交流会（科学祭本イベント開催期間中）、実施報告会（科学祭終了後）等を通じて、出展関係者や、函館で科学祭運営に携わるコミュニティメンバーとの交流機会があります。 2020 年よりオンラインでの交流機会を新たに設け、遠隔地の方をはじめ、様々な制約によって交流会への参加が難しかった方々に対しても気軽にご参加いただけるように努めています。

参加形態	はこだて国際科学祭2021での例
◉広報連携主体の参加 出展者が主催するイベントについて、科学祭のプログラムとして広報媒体に掲載いたします。科学祭開始当初は、函館地域で活動する団体、施設運営者の参加を想定していました。近年は、主催が地域外の方であっても、函館地域の方との協働や、共同主催で進めるような、プロジェクト学習(Project-Based Learning; PBL) 型アプローチも出てきています。	・2021 北海道大学水産学部 公開講座 「海をまるごとサイエンス！」（主催：北海道大学水産学部） ・エネルギーアカデミー in 函館「歴史から紐解くエネルギー・環境問題」 （主催：電源開発株式会社） ・大人の科学バー in はこだて国際科学祭 2021「北海道のワインと地質のはなし」 （主催：KIWI ラボ） ・はこだて 海のみらい展（主催：はこだてみらい館） ・第 2 回 Unity サークル作品発表会（主催：はこだてみらい館） ・世界のオオクワガタとオオカブトムシの生態（主催：函館市熱帯植物園） ・楽しい算数！図形パズル！ （主催：北海道教育大学函館校 数学を楽しむワークショップ・プロジェクト）
◉持ち込み企画 出展者が有するプログラムやオリジナル企画を函館で開催するものです。当初、企業 CSR 活動による出張プログラムを主に想定していました。近年は、主催が地域外の方であっても、函館地域の方との協働や、共同主催で進めるような、プロジェクト学習（Project-Based Learning; PBL）型アプローチも出てきています。	・島津ぶんせき体験スクール「ひさき型分光器を作って光を観察しよう！」 （主催：株式会社島津製作所） ・理研 DAY：研究者と話そう！「植物パワーで虫をコントロール！ ～生き物と共生する農業を目指して～」（主催：理化学研究所） ・でんきをつくってみよう～函館の縄文遺跡も巡るよ～（主催：電源開発株式会社） ・「想像＆創造してみよう！自動運転のある生活・社会」 ～「SF プロトタイピング」手法を使って～（主催：科学技術社会実装研究グループ）
◉科学祭恒例イベント／恒例会場への出展 科学屋台（ブースでの体験展示）、科学夜話（サイエンスカフェ）、五稜郭タワー会場ステージイベント等に出展・出演するものです。2020 年は、コロナ禍により五稜郭タワー会場での対面式のイベントは開催しませんでした。今年のオンライン開催の経験から、今度は対面式からオンラインに置き換えた、ヴァーチャルプログラムとしての実施も今後増えてくるものと考えられます。	・サイエンスショー おうちでサイエンス 2021（主催：サイエンス・サポート函館） ・KagaQ トークライブ in はこだて国際科学祭 2021『高校生と挑む，新・深・真宇宙論』 - 科学者との対話　宇宙と自分の関わりを考える -（主催：KagaQ） ・木育×科学祭　～環境を考えよう！～「マイ箸・マイスプーン・マイ皿」つくっちゃおう！ （主催：ななえ・大沼学びの森実行委員会）
◉サイエンス・サポート函館からの依頼 函館や、全国で活躍している著名人やパフォーマー等の出展・出演を、サイエンス・サポート函館から依頼するものです。	・サイエンス・ダイアログ「科学のミカタ：環境問題にどうむきあうか」 （主催：サイエンス・サポート函館）
◉地域探究学習・高大連携・スーパーサイエンスハイスクールの課題研究の一環 地域探究学習、高大連携、スーパーサイエンスハイスクールの課題研究の一環として、科学祭の場を提供するものです。自主自律に基づき、自ら場を切り拓いていくことが望まれます。	・ブレイン・サイエンスカフェ in はこだて国際科学祭 2021「脳を司る「脳」」 （主催：サイエンス・サポート函館） ・東大 CAST のサイエンスショー on the Web（主催：東大 CAST） ・サイエンス・カフェ「Save Our Planet (SOP) 地球温暖化ストップ」 （主催：帰山雅秀，山形慶）
◉サイエンス・サポート函館の自主企画 サイエンス・サポート函館事務局内部に集積した知見を整理し、その結果を囲い込むことなく市民と共有する自主企画です。	・あつまれ！わくわくエコキッズ（主催：函館の環境を考える会（エコネットはこだて））
◉その他 科学祭で実施したいイベントアイデアを、サイエンス・サポート函館関係者等と協働で具現化し、実施するものです。	・『進化思考』アクティブ・ブックダイアローグ in はこだて国際科学祭 2021 （主催:はこだて国際科学祭 2021 で『進化思考』アクティブ･ブックダイアローグ（ABD）をやってみる会） ・「大森浜で考える地球温暖化と海洋プラスチック汚染」ワークショップ （主催：チーム大森浜，ジオ・フェスティバル in HAKODATE 実行委員会） ・環境サイエンスカフェ「わかんないよね　個人衛生としての感染症対策の歴史 ～マスクを題材に～」（主催：サイエンス・サポート函館） ・ジオ散歩（主催：ジオ・フェスティバル in HAKODATE 実行委員会） ・第 5 回 ジオ・フェスティバル in HAKODATE （主催：ジオ・フェスティバル in HAKODATE 実行委員会） ・第 62 回 科学技術映像祭入選作品発表会（主催：はこだてみらい館） ・はこだて国際科学祭 2021	CoSTEP と、「環境」を考える（主催：北大 CoSTEP）

◆出展までの流れ

まずは、サイエンス・サポート函館事務局、もしくはお近くのサイエンス・サポート函館運営委員までお声がけください。あるいは、例年1月に開催している科学祭キックオフにご参加いただき、ご希望やアイデアをアピールいただくのでも構いません。

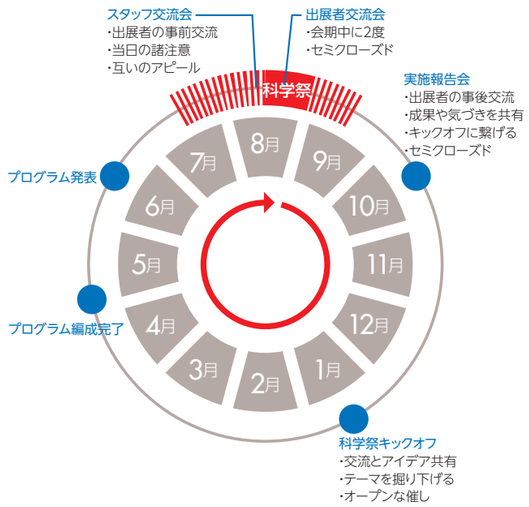
ご希望について、サイエンス・サポート函館との打合せ・ヒアリングを行い、実施可能性について検討します。サイエンス・サポート函館と出展希望の方のそれぞれの検討課題を調整いたします。

実現について見通しがつき、出展側、受け入れ側（サイエンス・サポート函館）双方の確認が取れ次第、出展確定となります。

●スケジュール
はこだて国際科学祭 2022
本イベント会期：8 月 20 日（土）～ 8 月 28 日（日）
プレイベント会期：7 月中旬～ 8 月上旬（予定）
ポストイベント会期：9 月上旬（予定）
プログラム発表：函館市内にて 6 月下旬に予定（対面およびオンライン）

◆各種締切
プレイベント
広報用テキストおよび写真の提出　5 月 13 日（金）
本イベント、ポストイベント広報用テキストおよび写真の提出　5月20日(金)

◆各種交流会（予定）
科学祭 2022 キックオフ　1 月 23 日（日）
スタッフ交流会　8 月 16 日（火）
サイエンス居酒屋（出展者交流会）8 月 20 日（土）
サイエンス炉端（出展者交流会）　8 月 27 日（土）
実施報告会　10 月前半に設定予定
科学祭 2023 キックオフ　2023 年 1 月後半に設定予定



主催組織 サイエンス・サポート函館

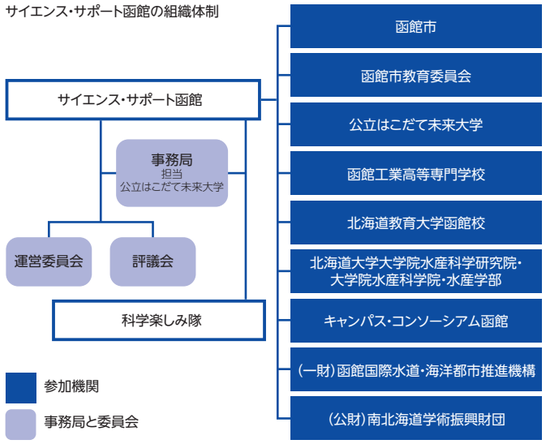
はこだて国際科学祭は、
・函館市
・函館市教育委員会
・公立はこだて未来大学
・函館工業高等専門学校
・北海道教育大学函館校
・北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部
・キャンパス・コンソーシアム函館
・(一財) 函館国際水産・海洋都市推進機構
・(公財) 南北海道学術振興財団
からなる、9つの参加機関で組織する任意団体「サイエンス・サポート函館」が全体の企画・運営を行っています。サイエンス・サポート函館の実務に関する重要な意思決定については、各参加機関に所属する運営委員による運営委員会にて実施されています。事務局は、公立はこだて未来大学社会連携センターに置かれ、専任のコーディネーターが取りまとめ、出展者のみなさまのイベント実施とネットワーキングを支援しているだけでなく、サイエンス・サポート函館独自の企画運営も併せて行っています。さらに、市民有志による任意団体「サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊」も科学祭の活動に積極的に関与しており、科学祭ではなくてはならない存在となっています。

●サイエンス・サポート函館運営委員 (2021 年 11 月現在)

・サイエンス・サポート函館代表 / 運営委員長
　美馬のゆり (公立はこだて未来大学)
・コーディネーター
　立花浩司 (公立はこだて未来大学)
・上記以外の運営委員
東海林智也 (函館工業高等専門学校)
青木昌雄 (北海道教育大学函館校)
宇治利樹 (北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部)
長谷川浩平 (北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部)
平野次彦 (公立はこだて未来大学)
内藤雄太 (函館市／キャンパス・コンソーシアム函館／(公財) 南北海道学術振興財団)

科学祭会場設営に集まった関係スタッフ

サイエンス・サポート函館の組織体制



SSH活動指針
よりよい社会を実現するために

活動指針その1「科学をまちに出す」
身近にある科学をみつける
研究室にある科学を持ち出す
科学と縁遠い人たちに接近する

活動指針その2「みんなで話をする」
新しいことを知り周囲に語る
周りを巻き込み形にする
楽しみながら役立てる

活動指針その3「函館から世界を変える」
世界で起きていることに目を向ける
足元にある課題をみつけ解決する
よりよい地球市民となる

はこだて国際科学祭を支える活動

サイエンス・サポート函館は、「はこだて国際科学祭」のほか、科学祭を支える活動として「はこだて科学網」および「はこだて科学寺子屋」の事業を行っています。また、草の根科学技術コミュニケーションの担い手として、2011 年 4 月に「サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊」が生まれ、陰に陽にはこだて国際科学祭の活動を支えています。

●はこだて科学網

通年の活動として、科学祭を通じた人的ネットワークの構築、および多様な価値観を認め合いながら協働し活動する場づくりを進める主体的な活動を継続的に支援しています。サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊による実験教室や、はこだてみらい館での科学イベント等、これまで接点のなかった人をネットワークし、科学技術コミュニケーション・地域コミュニケーションの活動を通じて、地域活性化に努めています。

●はこだて科学寺子屋

はこだて科学寺子屋は、2009 年、はこだて国際科学祭、はこだて科学網といった、科学技術と社会をつなぐ科学技術コミュニケーション活動の担い手を、函館の地で生み育てることを目的に開始されました。キャンパス・コンソーシアム函館の単位互換プログラムとして開講し、社会人と学生が一緒に学び合う公開集中講座を行っています。対象高等教育機関の学生は、単位認定を受けることができます。2021 年は、教育心理学、教育工学が専門の辻義人さん (公立はこだて未来大学メタ学習センター准教授) が主担当講師を務め、3日間の集中講座でレモン電池の仕組みを体験することを通じて、どのような科学イベントを企画すべきか考える機会を設けました。

●サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊

サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊は、はこだて科学寺子屋の受講生有志によって組織された、市民有志のグループです。はこだて国際科学祭や、外部から依頼を受けた各種イベントに対し、企画・参加・支援等、様々な形で関わっています (https://tanoshimitai.science/)。はこだて国際科学祭 2021 では、サイエンスショー「おうちでサイエンス 2021」をはじめ、各種オンラインイベントの企画実施およびオペレーションで活躍しました。

月例の定例会で親睦を図り、科学に関する情報交換をしています。科学にふれて楽しみたい！科学を通じて仲間を作りたい！など、興味をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。定例会の見学や入会など、サイエンス・サポート函館事務局あてお問い合わせください。

2022 年度の定例会は、スタッフ交流会を行う 8 月を除き、毎月第二火曜日の 18:30 から、千代台の函館市青年センターで行う予定です。

連絡先：
電話　0138-34-6527 (サイエンス・サポート函館事務局)
E-mail info@tanoshimitai.science (科学楽しみ隊直通)

コロナ禍により、体育館を使って十分な社会的距離を保って行う
実験教室の本番直後の様子

入念に実験教室の準備を行う科学楽しみ隊のメンバー

科学楽しみ隊によるサイエンスショー「おうちでサイエンス 2021」
リハーサルの様子

はこだて国際科学祭 2021 配信会場
「函館大学ベイエリア・サテライト (元金森船具店)」の外観

資料編　はこだて国際科学祭2021 プログラム一覧

番号	プログラム名	期日	会場	対象	内容	主催等
1	2021 北海道大学水産学部 公開講座 「海をまるごとサイエンス！」	7/10 ～ 9/20	北海道大学 函館キャンパス （一部ライブ配信に切替え）	（原則として）高校生以上	函館と深い関わりのある水産学について、 北大の教員が水産学部で行っている教育研究をテーマにした公開講座。	北海道大学水産学部
2	はこだて 海のみらい展	7/15 ～ 8/24	はこだてみらい館	どなたでも （子どもから大人まで）	当たり前すぎて見えなくなってしまった「海」の魅力を再発見し 未来を想像する、「海」をテーマにした企画展。	はこだてみらい館
3	展示「考えてみよう．海の環境問題」	7/15 ～ 8/24	はこだてみらい館	どなたでも （子どもから大人まで）	函館の海にはどんなゴミが多くて、なぜゴミが増えていくのか。 函館水産高校の生徒さんの取り組みも紹介。	はこだてみらい館 （協力：函館市環境部環境推進課，北海道函館水産高等学校）
4	島津ぶんせき体験スクール 「ひさき型分光器を作って光を観察しよう！」	7/20 ～ 8/15	オンライン配信と オンデマンド配信の併用 （Zoom、YouTube）	小学 3 年～小学 6 年の 児童限定	オンラインで、惑星分光観測衛星「ひさき」を模した 分光器をつくるプログラムを実施。	株式会社島津製作所 （協力：サイエンス・サポート函館）
5	第 62 回 科学技術映像祭入選作品オンライン上映 「ガリレオ X「生物から学ぶ新技術 深化するバイオミメティクス」」	7/20 ～ 8/29	オンデマンド配信 （YouTube）	どなたでも （子どもから大人まで）	長い進化の歴史の中で生物が獲得した特徴を学び、 新たな技術を開発する、バイオミメティクスの最新研究に迫る。	サイエンス・サポート函館 （企画・製作：ワック株式会社、配給協力：「科学技術映像祭」事務局）
6	第 62 回 科学技術映像祭入選作品オンライン上映 「日本のチカラ　ヒメタツに魅せられて ～再生へ向かう誇りの海～」	7/20 ～ 8/29	オンデマンド配信 （YouTube）	どなたでも （子どもから大人まで）	かつて、”死の海”とまで呼ばれた 水俣の海で繰り広げられる生命の営みと、 故郷の今を伝え続ける水俣市在住のダイバー 森下誠さんの思いを綴る。	サイエンス・サポート函館 （製作:株式会社 熊本放送、企画･委託:公益財団法人 民間放送教育協会、 配給協力：「科学技術映像祭」事務局）
7	第 62 回 科学技術映像祭入選作品オンライン上映 「なっとう　いのちの力」	7/20 ～ 8/29	オンデマンド配信 （YouTube）	どなたでも （子どもから大人まで）	環境が変われば、再び芽胞化し、素早く環境変化に対応して生き延びる、 納豆菌のたくましさに迫る。	サイエンス・サポート函館 （製作：株式会社アイカム、企画・委託：全国納豆協同組合連合会、 配給協力：「科学技術映像祭」事務局）
8	第 62 回 科学技術映像祭入選作品オンライン上映 「かがくチップス 日本の骨格を描き出せ！ ～地質図作成プロジェクト～」	7/20 ～ 8/29	オンデマンド配信 （YouTube）	どなたでも （子どもから大人まで）	明治時代から 135 年続く壮大な計画。日本の骨格図を描き出す、 道もない山奥で人知れず行われている地質図作成プロジェクトに迫る。	サイエンス・サポート函館 （企画・製作 ：国立研究開発法人産業技術総合研究所、 配給協力：「科学技術映像祭」事務局）
9	あつまれ！わくわくエコキッズ	7/22	函館環境衛生株式会社	函館市内の小学生と その保護者限定	楽しみながら環境 (ごみ) について学ぶキッズイベント。 パッカーくんと一緒に、いつもみんなが分けて出している、 ごみや資源が、どこでどうなっていくのかを学ぶ。	函館の環境を考える会 （後援：函館市女性会議、協力：函館市環境部、函館環境衛生株式会社）
10	『進化思考』 アクティブ・ブックダイアローグ in はこだて国際科学祭 2021	7/22、8/7	ライブ配信 （Zoom ミーティング）	事前に「進化思考」を ご準備いただける方限定	太刀川英輔著「進化思考」を用い、 参加者みんなの章を担当ごとに分け、限られた時間の中で本を読んで 内容を共有する「アクティブ・ブック・ダイアローグ（ABD）」を実施。	はこだて国際科学祭 2021 で 『進化思考』アクティブ・ブックダイアローグ（ABD）をやってみる会 （協力：海士の風）
11	でんきをつくってみよう ～函館の縄文遺跡も巡るよ～	7/27 ～ 9/20	オンデマンド配信 （YouTube）	どなたでも （子どもから大人まで）	「でんき犬」と電気について学んだ後、 「カックー」や「どぐう館長」とともに、 函館や七飯にある縄文遺跡や展示施設を巡る。	電源開発株式会社
12	エネルギーアカデミー in 函館 「歴史から紐解くエネルギー・環境問題」	7/31	函館 蔦屋書店 （Zoom 併用）	（原則として）高校生以上	エネルギー・環境問題について、過去と今を見つめなおし、 将来について、『東京大停電』著者の金田さんとともに考える。	電源開発株式会社 （共催：函館 蔦屋書店）
13	理研 DAY：研究者と話そう！ 「植物パワーで虫をコントロール！ ～生き物と共生する農業を目指して～」	7/31	ライブ配信 （Zoom ミーティング）	どなたでも （主に中高生向け）	オンラインで研究者と直接話ができるイベント「 理研 DAY：研究者と話そう！」を、 はこだて国際科学祭とのコラボイベントとして開催。	国立研究開発法人理化学研究所
14	世界のオオクワガタとオオカブトムシの生態	7/31 ～ 10/31	オンデマンド配信 （YouTube）	どなたでも （子どもから大人まで）	函館市熱帯植物園に生息する オオクワガタとオオカブトムシの生態などについて解説。	函館市熱帯植物園 （指定管理：函館エコロジークラブ）
15	「大森浜で考える地球温暖化と海洋プラスチック汚染」 ビーチコーミング＆ワークショップ	8/1 ～ 8/18	大森浜（ビーチコーミング） オンライン（ワークショップ）	どなたでも （ただし小学生は 4 年生以上、 保護者同伴）	漂着物を、観察しながら拾い集める「ビーチコーミング」。 さらに、この体験をもとに専門家の話を聞き、 浜でみつけたふしぎを掘り下げる。	チーム大森浜、ジオ・フェスティバル in Hakodate 実行委員会
16	おやこで自由研究 「時計を分解して自分だけの時計をつくろう♪」	8/4	函館 YWCA	小学生と保護者	時計を分解して自分だけの黒板時計を作ってみよう！ 時計部品の標本や、逆回転するさかさま時計も作るよ。 時計のしくみを調べてみよう♪	一般財団法人 函館 YWCA
17	ちかこ先生の科学で楽しく自由研究♪ 光を覗く！レインボースコープを作ろう！	8/7	函館市青年センター	小学生と保護者	光のヒミツをのぞいてみよう！ 自分で作ったレインボースコープでまわりの光を調べてみるよ。 太陽の光で色が出るおひさまストラップも作ってみよう♪	函館市青年センター
18	桜井泰憲先生講演会 「イカってどんな生き物？体験してみよう」	8/7 ～ 8/21	はこだてみらい館	どなたでも （子どもから大人まで）	はこだてみらい館のコンテンツ”イカの群れ”を使ったイカ解説と、 本物のイカに実際にふれてイカの動きなどを観察する 2 本立て。	はこだてみらい館
19	ジオ散歩 - 函館山の麓で縄文の渚を歩こう	8/8	元町公園・ 旧北海道庁函館支庁庁舎 ～市立函館博物館	どなたでも （ただし小学生は 4 年生以上、 保護者同伴）	函館山山麓の坂の上から縄文時代の景色をながめ、 縄文の渚を歩いて縄文の人々の暮らしと自然をたどるフィールドワーク。	ジオ・フェスティバル in HAKODATE 実行委員会 （協力：市立函館博物館）

番号	プログラム名	期日	会場	対象	内容	主催等
20	ブレイン・サイエンスカフェ in はこだて国際科学祭 2021 「脳を司る「脳」」	8/9	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	どなたでも (主に中高生向け)	高校生たちとともに、『脳を司る「脳」』(講談社ブルーバックス、2020)を題材として、脳科学に関する探究学習を深める。	お茶の水女子大学 毛内研究室 (協力：講談社ブルーバックス、市立函館高等学校「地域探究学習」、サイエンス・サポート函館)
21	KagaQ トークライブ in はこだて国際科学祭 2021 『高校生と挑む、新・深・真宇宙論』 ―科学者との対話　宇宙と自分の関わりを考える―	8/9	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	どなたでも (主に中高生向け)	宇宙科学を学びながら、最先端の研究と人々の関わりについて考え、宇宙とは何か、どういう存在なのか、高校生の視点から捉え直す。	KagaQ (協力：市立函館高等学校「地域探究学習」，サイエンス・サポート函館)
22	ジオ散歩 - 大森浜を歩こう	8/12	大森浜 (サン・リフレ函館周辺)	どなたでも (ただし小学生は 4 年生以上、保護者同伴)	大森浜を歩き、海岸浸食の状況や海の流れの動きを観察。旭森通沿いで砂丘跡を探し、函館の砂州の成り立ちについて考える。	ジオ・フェスティバル in HAKODATE 実行委員会 (協力：市立函館博物館)
23	和田雅昭先生講演会 「ちょっとみらいの水産業」	8/14	はこだてみらい館	どなたでも (子どもから大人まで)	公立はこだて未来大学 マリン IT・ラボ 所長の和田先生を迎えての講演会。	はこだてみらい館
24	東大 CAST のサイエンスショー on the Web	8/14 ～ 8/15	ライブ配信 (YouTube Live)	どなたでも (主に小学生向け)	市立函館高等学校「地域探究学習」を履修する生徒たちの協力のもと、サイエンスショーをすべて YouTube にてライブ配信。	東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST (協力：市立函館高等学校「地域探究学習」)
25	大人の科学バー in はこだて国際科学祭 2021 「北海道のワインと地質のはなし」	8/20	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	(原則として) 高校生以上	北海道の地質トークをベースに、いま大注目の北海道ワインにまつわる話題を絡め、なぜいまおいしいワインが北海道でできるのか?を話題提供。	キウイラボ (協力：サイエンス・サポート函館)
26	「想像&創造してみよう！自動運転のある生活・社会」 ～「SF プロトタイピング」手法を使って～	8/21	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	どなたでも (主に中学生以上向け)	科学技術が進化した未来の世界を考えてみようという「SF プロトタイピング」を用い、「自動運転」をキーワードに、私たちの未来の社会を、想像力・創造力を駆使して予測する。	科学技術社会実装研究グループ
27	サイエンス・カフェ 「守ろう私たちの地球 "Save Our Planet" (SOP)」	8/21	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	北海道函館中部高等学校の生徒限定	「日常の食生活」から温暖化を学び、ストップするためのサイエンス・カフェ「守ろう私たちの地球 "Save Our Planet" (SOP)」をオンライン形式で実施。	帰山雅秀 (北海道大学新渡戸カレッジ (帰山フェローゼミ)) 山形 慶 (北海道函館中部高等学校 SSH)
28	サイエンス・ダイアログ 「科学のミカタ：環境問題にどうむきあうか」	8/21	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	どなたでも (子どもから大人まで)	第 1 回科学ジャーナリスト大賞受賞者でもある、毎日新聞論説副委員長の元村有希子さんによる話題提供。	サイエンス・サポート函館
29	企画展「わたしたちはかかわりあう.」	8/21 ～ 9/20	オンライン (オンデマンドコンテンツ)	どなたでも (子どもから大人まで)	科学への関心を喚起するため、グラフィックデザインの力を利用し、パネル 20 枚を使って、今年のテーマの「環境」について、ひとつの物語を構成。	サイエンス・サポート函館 (制作：FVR ラボ)
30	楽しい算数！図形パズル！	8/21 ～ 9/20	オンデマンド配信 (YouTube)	どなたでも (子どもから大人まで)	タングラム、ごうどうぶんかつパズルを例に、図形の面白さをかんたんなパズルで楽しく学ぶ。	北海道教育大学函館校 数学を楽しむワークショップ・プロジェクト
31	はこだて国際科学祭 2021 CoSTEP と、「環境」を考える	8/21 ～ 8/29	オンライン (オンデマンドコンテンツ)	どなたでも (子どもから大人まで)	今年の科学祭のテーマは「環境」。そこで、北海道大学 CoSTEP がこれまで実践してきた環境に関連する、科学技術コミュニケーションの一部を紹介。	北海道大学 CoSTEP
32	第 62 回 科学技術映像祭入選作品発表会	8/23 ～ 8/28	はこだてみらい館	どなたでも (子どもから大人まで)	2020 年より函館でも視聴可能となった科学技術映像祭の入選作品より、今年も科学祭の開催期間に合わせた特別上映を実施。	はこだてみらい館 (配給協力：「科学技術映像祭」事務局)
33	環境サイエンスカフェ 「わかんないよね　個人衛生としての感染症対策の歴史 ～マスクを題材に～」	8/28	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	どなたでも (子どもから大人まで)	生活環境の変遷とマスクの着用の関連性や、感染対策だけでなく、そもそもマスクとは何かについて考える。	サイエンス・サポート函館
34	第 5 回 ジオ・フェスティバル in HAKODATE	8/29	ライブ配信 (Zoom ミーティング)	どなたでも (子どもから大人まで)	Zoom を使ってデモンストレーターと結び、用意した化石ミニ発掘などのキットを希望者に事前に配布して、オンラインで体験。	ジオ・フェスティバル in HAKODATE 実行委員会 (共催：サイエンス・サポート函館)
35	第 2 回 Unity サークル作品発表会	8/29	はこだてみらい館	どなたでも (子どもから大人まで)	はこだてみらい館にて、週 2 回開催している Unity サークル。その参加メンバーたちによるゲームやアニメーションなどのオリジナルデジタル作品の制作発表会。	はこだてみらい館
36	サイエンスショーライブ配信 「おうちでサイエンス 2021」	8/29	ライブ配信 (YouTube Live)	どなたでも (子どもから大人まで)	今年の科学祭のテーマは「環境」。そこで、おうちにあるプラスチックをリサイクルして楽しめる実験を紹介。	サイエンス・サポート函館
37	環境サイエンスカフェ 「世界の取り組みから考える地球温暖化防止」	8/29	オンライン (Zoom ミーティング)	どなたでも (子どもから大人まで)	3 名のパネリストからそれぞれ、地球温暖化防止に対する話題提供をいただいたあと、環境問題の視点から議論いただき、今年の科学祭を締めくくる。	サイエンス・サポート函館
38	木育×科学祭 ～環境を考えよう！～ 「マイ箸・マイスプーン・マイ皿」つくっちゃおう！	9/1 ～ 9/20	オンデマンド配信 (YouTube)	どなたでも (子どもから大人まで)	プラスティックごみを考え、木育視点で発信する。	サイエンス・サポート函館

このマークのイベントでは、
コミュニケーション支援アプリ「UD トーク」によるリアルタイム字幕を提供

はこだて国際科学祭 2021 ご協力者一覧

●後援
北海道
北斗市
北斗市教育委員会
七飯町
七飯町教育委員会
北海道新聞社
函館新聞社
朝日新聞社函館支局
日本経済新聞社函館支局
毎日新聞函館支局
読売新聞函館支局
NHK 函館放送局
HBC 函館放送局
STV 函館放送局
HTB 函館支社
UHB 北海道文化放送
TVh テレビ北海道
NCV 函館センター
FM いるか
一般社団法人 函館国際観光コンベンション協会
公益財団法人 函館地域産業振興財団
産学連携「クリエイティブネットワーク」

●協力
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

●連携
2021 サイエンスパーク

●技術協力
UD トーク ®
はこだて国際科学祭では、コミュニケーション支援アプリ「UD トーク」による音声認識技術を活用したリアルタイム字幕を提供し、トークイベントの「見える化」を目指します。

●主催・共催・出展・出演など
安部洋(理化学研究所バイオリソース研究センター実験植物開発室 専任研究員)
網盛一郎（Xenoma Co-Founder & 代表取締役 CEO）
新居舜（京都大学基礎物理学研究所 博士研究員）
有村直子（日本ファシリテーション協会 会員）
池田孝道（函館市青年センター センター長）
池田誠（北海道国際交流センター 事務局長）
石川肇（日本ファシリテーション協会 会員）
一般財団法人 函館 YWCA
井上千加子（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊 幹事）
今井渉世（東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST）
入澤栞音（北海道大学農学部 B1）
宇野菜央樹（市立函館高等学校）
嬉野雅道（北海道テレビ放送株式会社）
FVR ラボ
岡島櫂人（市立函館高等学校）
小熊勝彦（北海道渡島総合振興局 東部森林室）
お茶の水女子大学 毛内研究室
帰山雅秀（北海道大学新渡戸カレッジ フェロー（学部教育コース））
KagaQ
科学技術社会実装研究グループ
鍛治裕之（HOH 理科サークル）
片岡寛孝（シャカン・セ・グー 店主）
金田武司（株式会社ユニバーサルエネルギー研究所 代表取締役）
株式会社アイカム
株式会社風と土と（海士の風）
株式会社熊本放送
株式会社島津製作所
川邊久之（エノリューション 代表）
雁沢夏子（函館大谷高校・函館市立鍛神小学校 非常勤講師）
キウイラボ
岸田典子（日本ファシリテーション協会 会員）
北村もあな（北海道大学水産学部 B3）
紀藤典夫（北海道教育大学函館校）
桑原尚司（北海道立オホーツク流氷科学センター 学芸員）
公共財団法人民間放送教育協会
国立研究開発法人産業技術総合研究所
国立研究開発法人理化学研究所
小島あずさ（一般社団法人 JEAN 理事）
後藤忠徳（兵庫県立大学大学院生命理学研究科 教授）
酒井裕介（KagaQ 代表）
坂上陽凛（市立函館高等学校）
桜井泰憲（函館頭足類科学研究所 所長）
佐々木香（函館の環境を考える会 事務局長）
笹原悟（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊 代表）
佐竹正人（日本ファシリテーション協会 会員）
佐藤智雄（市立函館博物館 学芸員）
サワダサヲリ（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊 幹事）
澤村邦史（北海道認定 木育マイスター）
三瓶真（函館国際水産・海洋都市推進機構 プロジェクトマネージャー）
ジオ・フェスティバル in Hakodate 実行委員会
市立函館高等学校有志
市立函館博物館
鈴木心絆（市立函館高等学校）
鈴木明彦（北海道教育大学札幌校 教授）
鈴木一郎（NPO 法人函館エコロジークラブ 事務局長）
住田朋久（慶應義塾大学文学部 訪問研究員）
仙石智義（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊 副代表）
全国納豆協同組合連合会
太刀川英輔（「進化思考」著者，デザインストラテジスト）
立花浩司（日本ファシリテーション協会 会員）
田中いずみ（北海道認定 木育マイスター）
田中邦明（北海道教育大学函館校 名誉教授）
田中耕治（北海道室蘭清水丘高等学校）
田中博人（東京工業大学）
谷口雅春（ライター）
種村剛（北海道大学 CoSTEP 特任講師）
チーム大森浜
千葉泰史（北海道大学農学部 B3）
電源開発株式会社
東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST
内藤昌信（物質・材料研究機構）
永井将人（木族工房 グリーンインストラクター）
長澤元子（北海道函館西高等学校 教諭）
中嶋久（HOH 理科サークル）
中田敏是（千葉大学大学院工学研究科 特任助教）
中谷歩夢（市立函館高等学校）
ななえ・大沼学びの森実行委員会
七飯町歴史館
南部優子（日本ファシリテーション協会 会員）
ニシイサチコ（神戸でアクティブ・ブック・ダイアローグ）
西野靖江（日本ファシリテーション協会 会員）
埜澤尚範（北海道大学大学院水産科学研究院 准教授）
野田篤（産業技術総合研究所 地質情報研究部門 研究グループ長）
NPO 法人函館エコロジークラブ
函館環境衛生株式会社
はこだて国際科学祭 2021で『進化思考』アクティブ・ブックダイアローグ(ABD)をやってみる会
函館市環境部
函館市縄文文化交流センター
函館市女性会議
函館市青年センター
函館 鳶屋書店
函館の環境を考える会（エコネットはこだて）
はこだてみらい館
函館ラ・サール高等学校有志
畠山泰英（キウイラボ 代表）
パッカーくん（函館環境衛生株式会社）
馬場悠人（市立函館高等学校）
林原和哉（道南虫の会）
原田泰（FVR ラボ）
福田怜奈（市立函館高等学校）
藤田輝（電源開発株式会社函館駐在事務所 所長代理）
藤村忠寿（北海道テレビ放送株式会社）
藤森信明（電源開発株式会社函館駐在事務所 所長代理）
星光（宇宙航空研究開発機構）
細川雅史（北海道大学大学院水産科学研究院 教授）
北海道渡島総合振興局 東部森林室
北海道教育大学函館校 数学を楽しむワークショップ・プロジェクト
北海道大学 CoSTEP
北海道大学大学院水産科学研究院・大学院水産科学院・水産学部
北海道テレビ放送株式会社
北海道函館水産高等学校
北海道函館中部高等学校有志
北海道函館西高等学校有志
北海道立オホーツク流氷科学センター
松井有紀（株式会社島津製作所）
松浦俊彦（サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊 会計監査）
松野孝平（北海道大学大学院水産科学研究院 助教）
美馬のゆり（公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授）
宗原弘幸（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授）
村上嘉子（北海道認定 木育マイスター）
毛内拡（お茶の水女子大学基幹研究院 助教）
元村有希子（毎日新聞社 論説副委員長）
森さやか（北海道テレビ放送株式会社）
森下誠（水俣ダイビングサービス SEA HORSE 代表）
安間洋樹（北海道大学大学院水産科学研究院 准教授）
山形慶（北海道函館中部高等学校 教諭）
山田浩司（KagaQ）
山本蒼一郎（東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST）
山本正子（函館の環境を考える会）
依田竣介（はこだてみらい館 企画スタッフ）
輪嶋英明（函館大学付属有斗高等学校）
和田雅昭（公立はこだて未来大学 マリン IT・ラボ 所長）
ワック株式会社

●サイエンス・サポート函館 科学楽しみ隊有志
井上千加子
笹原悟
サワダサヲリ
仙石智義
藤森信明
松浦俊彦

●企画展 企画制作 FVR ラボメンバー
立花浩司（公立はこだて未来大学 社会連携センター 地域連携支援コーディネーター）
谷口雅春（ライター）
原田泰（公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授）
美馬のゆり（公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授）

●その他ご協力
鮎合真介（NHK 函館放送局 記者）
相庭美華（NCV 函館センター コンテンツ制作課）
阿久津友紀（北海道テレビ放送株式会社 コンテンツビジネス局 ネットデジタル事業部 副部長）
飯山愛（株式会社科学新聞社 編集部）
伊藤美帆（国立研究開発法人理化学研究所 生命医科学研究センター 研究支援専門職 学術・広報担当）
上田敦（北海道大学函館キャンパス事務部 研究協力担当）
岡本啓吾（函館コミュニティプラザ G スクエア 統括責任者）
尾田ほの香（株式会社アートフル）
落合仁子（函館市中央図書館 副館長）
葛西秀浩(株式会社エスイーシー 情報通信事業本部 函館システム事業部)
加藤颯（函館市教育委員会生涯学習部 生涯学習文化課）
甲谷厳（日本アマチュア無線連盟 渡島檜山支部）
黒坂郁美（株式会社アートフル）
腰高直樹（国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部 メディアグループ調査員）
佐々木紫（函館山ロープウェイ株式会社 FM いるか パーソナリティ）
佐藤恭子（クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 Domingo 担当）
佐藤博康（函館市環境部環境総務課）
澤田石久巳（函館大学ペイエリア・サテライト 職員）
成玖美(名古屋大学学術研究･産学官連携推進本部人材育成･情報発信部門 情報発信ユニット)
高橋和将（函館大学地域連携センター 地域連携コーディネーター）
高畠学（函館市環境部環境推進課）
田口慈（Xenoma）
辻義人（公立はこだて未来大学 メタ学習センター 准教授）
寺澤隆幸（北海道総合政策部 次世代社会戦略局 科学技術振興課）
内藤雄太（函館市企画部企画管理課 水産海洋・高等教育担当）
中村江利子（国立研究開発法人理化学研究所 広報室）
中村慎吾（公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団 総務課）
成田晃浩（函館市都市建設部まちづくり景観課）
新田智美（函館市都市建設部まちづくり景観課）
野口賢清（函館新聞社編集局社会部 記者）
野副晋（千葉市科学館事業課 課長）
野長瀬郁実（北海道新聞函館支社 報道部 編集スタッフ）
長谷山裕一（函館市教育委員会生涯学習部 文化財課）
福田あゆみ(環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道) スタッフ)
藤田恭吾（有限会社ビデオ・ザ・キッド カメラマン）
藤田秀樹（函館国際水産・海洋都市推進機構 事務局長）
藤田道子（有限会社ビデオ・ザ・キッド 取締役）
筆村美奈子（函館大学総務・研究支援室 係長）
舩矢直子（函館市スクールソーシャルワーカー・ひらく心理支援オフィス）
松川文弥（数学塾 塾長）
溝渕清彦(環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO 北海道) チーフ)
箭野謙(国立研究開発法人科学技術振興機構 産学連携展開部 企画課 業務管理チーム)
矢野旦（北海道新聞函館支社 報道部 記者）
山下綾（公益財団法人中部科学技術センター 科学技術普及部）
山田かおり（縄文 DOHNAN プロジェクト 代表）
山田直也（キュリー株式会社 メディア事業部 広報担当）
吉田沙織（株式会社シンプルウェイ はこぶら担当）

ポスター掲示ご協力の皆様、その他大勢の皆様

※敬称略／組織名・所属は、開催当時のもの

はこだて国際科学祭2021　実施報告書
2021年（令和 3 年）12 月

発行：サイエンス・サポート函館
代表：美馬のゆり
編集：立花浩司
デザイン：原田泰

お問い合わせ先
〒041-8655 北海道函館市亀田中野町 116-2
公立はこだて未来大学 社会連携センター内
サイエンス・サポート函館事務局
e-mail info@sciencefestival.jp
URL https://www.sciencefestival.jp/
TEL 0138-34-6527
FAX 0138-34-6564

はこだて国際
科学祭